

## 令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第一小学校

## 学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「令和6年度サポートテスト」における話し合いの聞き取りにおいて、参加校平均点を、5年生では8.7ポイント、6年生では3.8ポイント下回っている。書く力では、5年生では3.1ポイント、6年生では7.8ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を考えて聞くことができていない。</li> <li>・基本的な文章の書き方の習熟が不十分である。</li> </ul>
算数	「令和6年度サポートテスト」における図形学習において、参加校平均点を、4年生では2.3ポイント上回り、5年生では7.3ポイント、6年生では8ポイント下回っている。活用力においては、5年生では5.8ポイント、6年生では8.6ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の習熟が不十分である。</li> <li>・図や言葉で考えを表現したり他の児童に説明したりするなどの機会が少ないことが考えられる。</li> <li>・実際の生活や経験と結び付けて考えていく場が少ないことが考えられる。</li> </ul>
社会	「令和6年度サポートテスト」における地理的分野における理解については、参加校平均点を、4年生では1ポイント上回り、5年生では11.7ポイント、6年生では8.1ポイント下回っている。資料の読み取り等考える力において、5年生では6.1ポイント、6年生では4.0ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の積み重ねが不十分である。</li> <li>・様々な資料を読み取り、分かったことについて考察し表現する活動が十分にできていない。</li> </ul>
理科	「令和6年度サポートテスト」における結果を整理し論理的にまとめることにおいては、参加校平均点を、5年生では5.8ポイント、6年生では5.5ポイント下回っている。学習内容の理解については、5年生では4.6ポイント、6年生では5.5ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解を押さえながら、自分の考えに結び付けたり、課題に対する結論を確実に押さえて習熟させたりすることが不十分である。</li> </ul>
英語	「令和6年度サポートテスト」における単語の書くことでは、参加校平均点を3.1ポイント下回っている。日常会話を聞いて、その目的や場面・状況などを理解することが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語一つ一つの意味を確認する時間が十分に取れていない。</li> <li>・繰り返し聞き取りをする時間が十分とれていない。</li> </ul>

体 育	「東京都統一体力テスト」の結果における握力の数値が、ほとんどの学年で1~2ポイント下回っていた。また、20m シャトルランの値が区の平均を下回っている学年があった。	・普段の生活や遊びの中での運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。また、日常生活で強く握る、ぶらさがる、重たいものを持つといった経験も減っていることが考えられる。
-----	--	--

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	文章を書く力において、「令和7年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	算数	図形領域において「令和7年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	社会	地理的分野における理解において、「令和7年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	理科	結果を整理、論理的にまとめるにおいては、「令和7年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	英語	単語の読むことで、「令和7年度学習力サポートテスト」で、参加校平均点を上回るようにする。
	体育	「東京都統一体力テスト」において、握力・立ち幅跳びの値で、すべての学年が区の平均を超えられるようにする。
②授業改善		学校評価の児童アンケートにおける「授業がよく分かる」において、肯定的な回答が93パーセントを上回るようにする。
③ 家庭との連携		学校評価の保護者アンケートにおける「学習習慣を身に付き、自らすすんで課題に取り組んでいる」において、肯定的な回答が80パーセントを上回るようにする。
④体力向上		体を動かすことが好きになり、休み時間に積極的に外遊びで体を動かしたり、体育に主体的に取り組んだりする児童が9割超えるようにする。また、安全に取り組むための知識・技能を9割以上の児童に身に付けるようにする。

### 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	文章を書く際には、書く目的や文章の構成を意識して相手に伝わるように書かせる。話す・聞くの学習では、話の要点は何かをしっかりと押さえて話したり、聞いたりできるようにさせる。
算数	自分の考えを表現する時間を確保し、図・式・言葉など多様な表現方法で表現できるようにする。図形領域の学習では、繰り返し練習問題を解いていく。

社会	調べたことをまとめたり、社会的事象を多角的に捉えて関連付けたまとめを行ったりすることで、理解を深めていく。統計グラフや年表などの資料から内容を読み取り、気付いたことや自分の考えをまとめる活動を行う。
理科	実験・観察後の結果を整理した後、自分で考えてまとめる活動をする。視聴覚教材を活用して学習事項を確実に押さえていく。
英語	スモールステップで、ペア活動、グループ活動、学級全体活動に取り組む。友達に尋ねたり、自分のことを伝えたりする活動を積極的に取り入れる。
体育	縄跳び、持久走、ボルダリング等のマイスクールスポーツを充実させたり、運動の楽しさを味わえるような授業作りを行ったりして、進んで身体を動かす児童を育てる。体力テストで平均を下回っていた握力等の記録の向上を目指していく。

### ②授業改善

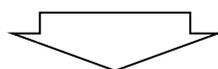
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。また、デジタル教材を活用し、視覚的な情報を多く取り入れた授業作りをすることで、支援を要する児童にも分かりやすい環境を作る。
取組Ⅱ	授業後に授業の構成を見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。必要に応じて、習熟する時間を多く取るようにする。補習（スタディ月一）を活用し、習熟に時間の必要な児童が基礎基本を身に付けられるように指導する。

### ③家庭との連携

取組Ⅰ	tetoru や連絡帳を活用し、学習用具の準備や学習の予定について児童や保護者が課題を確認できるようにすることで、進んで課題に取り組む姿勢を整える。
取組Ⅱ	自学・自習の内容を充実させ、家庭学習の習慣を身に付ける。低学年では宿題の丸付けを保護者に依頼し、学習のつまづきを学校と家庭で共有する。

### ④体力向上

取組Ⅰ	発達段階に合わせた運動や運動遊びを通して、自己の課題をもたせ、友達と関わりながら、体の動きを高められるようにする。外体育の授業の際には、時間走を行う。
取組Ⅱ	縄跳びカードを活用し、縄跳びに意欲的に取り組ませることで、持久力の向上、グリップを握る際の握力の向上、ジャンプすることでの跳躍力の向上を目指していく。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	「書く」学習では、文章の構成と内容について構成メモを作るなどして意識させてきた。「書く」ことができる児童は多くなっている。「話す・聞く」の学習では、話し合い活動などを通して、話の要点に沿った話し方や聞き方ができるようになってきた。	書き方は分かってきたが、内容をどうするかについては個人差が大きい。「書く」、「話す・聞く」共に、例を示したり、児童同士で学び合ったりするなどして力を付けていけるようにしていく。
	算数	多様な表現方法で表現できるようにいろいろなパターンを例示するなどして、意識させてきた。図をかくことで理解を補うことができた。また、日常生活と結び付けることでイメージしやすくなるようにした。	図をかくこと自体どのようにすればよいか分からない児童もいる。図の意味理解などから、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたい。繰り返し学習することで定着させていきたい。
	社会	單元ごとにまとめのノートを作成したことで、学習から学んだことや自分の考えを表現することができるようになった。	グラフや年表などの資料から自力で情報を読み取るのはまだ難しい。解説をしながら全体で資料を確認するなどして、資料からも情報が読み取れるようにしていく。
	理科	結果と考えを書く時間を別々で確保することで、結果から分かることを書くという意識はもてている。動画やkahoot!など、楽しみながら確認できる教材を活用し意欲を高めた。	考えが結果と同じになってしまう児童がいるので、他の児童の発表等を参考にして真似から始めるようにした。課題を選択できるようにし、どの児童も学習ができるようにこれからも工夫をしていく。
	英語	動画や教科書のアプリケーションで基礎・基本の定着を図った。会話表現や発表がよくなってきた。	書き取りの苦手さについては、その機会を増やすなどしてさらに定着できるようにしていく。
	体育	持久走、縄跳びなどのマイスクールスポーツにすすんで取り組む児童が多くいた。	苦手意識をもつ児童に少しでも楽しいという思いをがもてるようにさらに工夫していく。
② 授業改善		児童の実態に合った授業プランを作成して、より理解が深まるようにした。デジタル教材を活用するようにし、様々なタイプの児童の理解が深まるようにした。	もっとデジタル教材を活用し視覚的な情報を多く取り入れた授業作りをしていく。ICT支援員と連携を図り授業改善をしていく。

<p>③ 家庭との連携</p>	<p>主に連絡帳を活用し、日々の予定等については確認できるようにした。必要に応じて電話やtetoru、classroomでの連絡を行い、家庭と連携できるようにした。</p>	<p>引き続き、保護者との連絡を取り、児童の学習状況などの共有を図っていく。</p>
<p>④ 体力向上</p>	<p>自己の課題をもたせ、友達と関わりながら身体の動きを高められるようにしてきた。</p>	<p>課題についてはどのくらい意識して取り組んでいけるかについては、個によって違っていた。工夫の仕方を考え取り組んでいく。</p>